

2024  
9.15

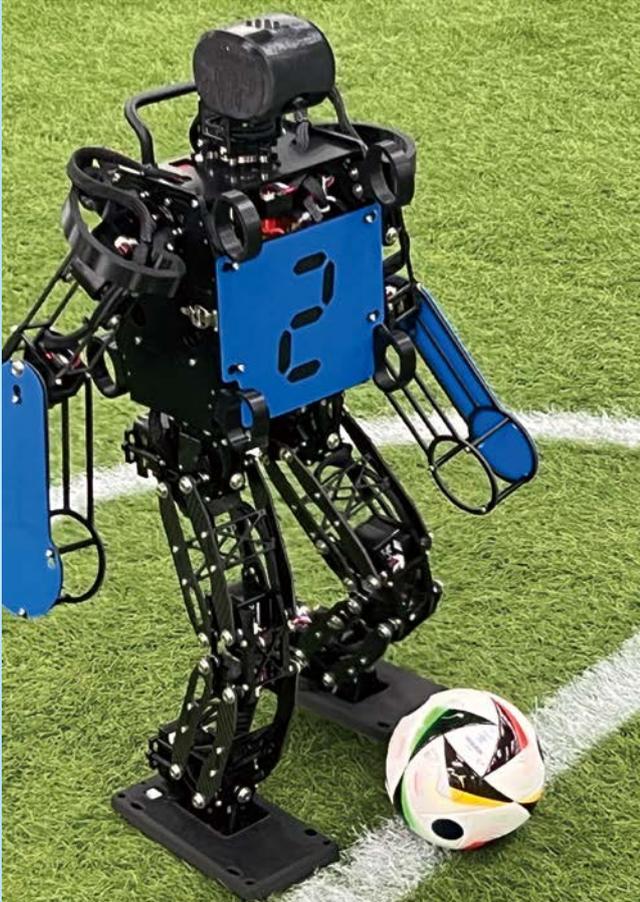
NEWS

CIT

千葉工業大学 入試広報部  
CHIBA INSTITUTE OF TECHNOLOGY〒275-0016  
千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号  
TEL 047(478)0222  
FAX 047(478)3344

[ NO.687 ]

校章は、創立直後の昭和17年、公募によって制定され、平成4年、創立50周年に伴い、商標登録されました。新しいNEWS CITはスクールカラーの「紫紺」をベースに、さわやかなスカイブルーカラーでお届けします。

<https://www.it-chiba.ac.jp/>

## ロボット分野と宇宙分野で 世界に貢献する千葉工業大学

千葉工業大学は、ロボットと宇宙の分野で目覚ましい進歩を遂げています。ロボット技術はロボカップ世界大会で2部門制覇し、高い技術力が国際的の評価を得ました。宇宙分野では、超小型衛星「KASHIWA」、「SAKURA」が次々とミッションを達成し、拡大する宇宙産業を支える高度技術者として着実な前進を続けています。これらの成果は、学生たちの情熱と努力、さらには革新的な技術開発に向けて教職員とともに全力で取り組む本学の高いチーム力を示すものと言えます。本学は2006年に他大学に先駆けて未来ロボティクス学科を設置し、2025年4月には宇宙・半導体工学科が誕生します。これからもロボットと宇宙分野の最前線で、世界に貢献する新たな挑戦を続けていきます。

P2 CIT Brainsがロボカップ2024オランダ世界大会で優勝!

P3 超小型衛星「SAKURA」の宇宙空間放出に成功—放出後2日で初期ミッションを達成—

P4 野本さん、稲葉さんがBest Student Paper Award をダブル受賞/建築学専攻の村上さんが金武漢賞を受賞/村上和仁教授が千葉県環境功労者知事感謝状を授与/学生寮が国際交流の場に、着付け体験を実施

P5 次世代エンターテインメント体験の実現を目指す/大学職業指導研究会第四分科会が40周年記念式典

P7 「深層エコステートネットワーク」性能向上の仕組みの解明に一步近づく/fuRoのロボットに興味津々!ロボットの魅力を伝えるワークショップを開催/訃報

P8 今年も大盛況!6月・8月のオープンキャンパス

P9 就職・進路支援だより/コラム

## CIT Brainsが ロボカップ2024オランダ世界大会で優勝!

本学の未来ロボティクス学科を主体に有志で構成するヒューマノイドロボット開発チーム「CIT Brains」が7月、オランダで開催された自律型ロボットによるサッカーの世界大会「ロボカップ2024」の2部門で優勝しました。2006年の結成以来、数々の大会で輝かしい成績を残してきたチームで、改めて本学の高い技術力を世界に示しました。

ロボカップは「2050年までにサッカーW杯チャンピオンに勝つ自律型のヒューマノイドロボットを作る」ことをテーマにスタート。第1回世界大会は1997年に名古屋市で開催され、毎年各地でロボットの実機を使った技術を競い合っています。

本学の「CIT Brains」は未来ロボティクス学科の林原靖男教授による指導の下、7月15～22日にオランダ アイントホーフェンで開催されたヒューマノイド・キッドサイズリーグ「サッカー4on4」に出場し、12カ国の15チームによる激戦を制して優勝。また、チーム同士が合同で戦って得点を競う「ドロップインゲーム」では2位のチームに3倍以上のポイントを獲得し、圧勝しました。

ヒューマノイドリーグは、人工芝の上で二足歩行のロボットがサッカーをする非常に高度な技術を要する競技。学生主体の「CIT Brains」は、未来ロボティクス専攻2年の久保寺真仁さんがハードウェア（機械、制御回路）を担当。井上叡さん（歩行制御・システム担当）、野口裕貴さん（歩行パラメータ・システム担当）、横尾陸さん（認識、システム担当）と高い技術力を証明しました。

今大会に向けてコンピューターやモーターなどを一新し、新しいロボットの開発に取り組んだ本学のチームです。「新しく導入した機器は発売されたばかりで、インターネット上にもトラブルシュー

ティングの情報がなく、使用しているユーザーも見当たらない状況だった。そうした中でゼロから知見を蓄え、以前と同様の動作を実現するまでには多くの時間がかかった」（久保寺さん）。大会中には競技形式で動かして初めて発覚する問題があったものの、修正を重ねて決勝戦の良い動きにつながりました。

本学の「CIT Brains」は2014年のブラジル大会、2015年の中国大会、2021年と2022年のバーチャル大会、2022年のタイ大会のサッカー・キッドサイズ部門で優勝。2014年にはサッカーゲームとテクニカルチャレンジで優勝し、「ベストヒューマノイド」に選出されています。

久保寺さんは「再び世界一のタイトルを獲得できたことを誇りに思います。大学1年生の時からチームに参加し、5年間の集大成として最高の結果を得ることができたのは非常に感慨深いです」と喜びを語りました。受け継がれてきたノウハウがチームの強さの源であるといい、「技術やノウハウをより多くの人々に活用してもらえよう外部に向けて広く情報を提供していきたい。海外への技術供与を通じ、ロボット・ヒューマノイドリーグの発展やロボット工学全体への貢献を続けていきたいと思っています」と今後の目標を掲げました。



CIT Brainsのメンバー。左から野口さん、井上さん、林原教授、横尾さん、久保寺さん



vs.KURA(アラブ首長国連邦)との決勝戦



競技中もより良い動きを模索する



SAKURA研究開発メンバーの学生たち。左から坂本さん、川西さん、林さん、井上さん、柳川さん



開発の様子



ISSから宇宙空間へと放出されたSAKURA (YouTube公式チャンネル「JAXAイベントライブ配信専用チャンネル」より引用)



JAXA筑波宇宙センターでの放出イベントにてGo Callをする瀬戸熊理事長ら (YouTube公式チャンネル「JAXA イベントライブ配信専用チャンネル」より引用)

## 超小型衛星「SAKURA」の宇宙空間放出に成功

### —放出後2日で初期ミッションを達成—

本学の高度技術者育成プログラムの一環で現4年生の学生グループが開発した打ち上げ2機目となる超小型衛星「SAKURA」が8月29日、国際宇宙ステーション (ISS) から宇宙空間へ放出されました。放出初日に宇宙空間での衛星基本機能の動作が確認され、撮影画像を地球上で画像に復元する事にも成功。ミニマムサクセスレベル (最低成功条件) を達成しました。今後は太陽の観測や一般アマチュア無線家へのメッセージ送受信などに挑戦します。

1辺が10センチの立方体サイズで、質量約1キログラムの「SAKURA」は、プロジェクトに参加した当時2年生の学生が「宇宙で確実に動く衛星」を目指して2022年から開発に着手。今年4月、JAXA (宇宙航空研究開発機構) に引き渡されました。8月5日には高度約400kmを飛行しているISSに向けてアメリカ・スペースX社のFalcon 9ロケットNG-21号機により打ち上げられました。

8月29日にJAXA筑波宇宙センター (茨城県つくば市) で行われた放出イベントには、本学から瀬戸熊修理理事長や福江聡法人務局長、惑星探査研究センター (PERC) の荒井朋子所長らが参加。

「SAKURA」のプロジェクトマネージャーである知能メディア工学科4年の林和輝さんや原田徹郎PERC研究員とともに「SAKURA, Ready Go!」とコールするとISSから宇宙空間に放出。その日のうちに大学地上局での試験信号の送受信に成功し、チームは歓喜に沸きました。その後も初期運用は全て順調に進み、9月18日、人工衛星局相当アマチュア局免許が交付されて初期ミッション達成を発表しました。

「SAKURA」は、①火山・洪水・台風を対象とした地球観測②太陽黒点の撮影・観測③一般アマチュア無線家へのメッセージ送受信の3つをミッションとしています。林さんは「衛星が動いていることを確認できた瞬間は達成感を感じた。自分たちのチームは仲が良く、何が起きても支え合えるチームだ。これからも、ミッションの達成に努めていきたい」と喜びを嘯みしていました。

本学は、拡大する宇宙産業を支えるために宇宙で確実に動くものづくりができる高度技術者育成プログラムを2021年4月にスタート。今春には打ち上げ初号機「KASHIWA」がISSから放出。運用に成功しています。

#### 「SAKURA」 開発メンバー

- ・ 林 和輝さん (知能メディア工学科) プロジェクトマネージャー
- ・ 川井 俊輝さん (電気電子工学科)
- ・ 川西 ひかるさん (機械工学科)
- ・ 吉田 倫太郎さん (機械工学科)
- ・ 坂本 銀月さん (都市環境工学科)
- ・ 柳川 侑輝さん (先端材料工学科)
- ・ 井上 翔吾さん (機械電子創成工学科)
- ・ 清野 太貴さん (知能メディア工学科)

## 野本さん、稲葉さんが Best Student Paper Awardをダブル受賞



プロジェクトマネジメント学科 野本 礼恩 さん  
【田隈 広紀 研究室】



マネジメント工学専攻修士 稲葉 孔輝 さん  
【岩下 基 研究室】

プロジェクトマネジメント学科4年の野本礼恩さんが、7月17日にIEEE/ACIS第26回国際会議「ICIS 2024-Summer III」でBest Student Paper Awardを受賞しました。授賞式は北九州国際会議場で開催されました。野本さんの研究テーマは「大規模言語モデルによるソースコード生成の品質向上と開発ドキュメントの詳細化に関する分析」です。ウォーターフォールモデルの進行に基づく複数の命令文を用いて生成されたソフトウェアの評価を実施することで、大規模言語モデルに入力する情報の詳細度の差がソフトウェアに与える影響を分析し、プロジェクトの早期からソースコード生成を利用するための提言を行いました。野本さんは「初めての論文投稿で多くの改善の余地がある中、このような評価を受けたことに大変光栄です。今後も研究に励んでいきたい」と喜びと意欲を語りました。

また、マネジメント工学専攻修士2年の稲葉孔輝さんも同国際会議において、同賞を受賞しました。稲葉さんの研究テーマは「Alternative Location Recommendation Methods to Avoid Crowding at Tourist Site」で、インバウンドによるオーバーツーリズム問題に対応するため、観光地の代替スポットを提案する新しい手法を開発しました。この手法は、観光資源の類似性、関連性、人気度、移動距離の4つの要素を基に、代替スポットの候補度合を定量的に導き出すことが特徴です。稲葉さんは「1年間の研究が評価され光栄です。ご指導いただいた岩下先生や、協力してくださった皆様に心より感謝申し上げます。今後も研究に励み、実際の観光地で本研究を活用できるよう努めたい」と感想を述べました。

## 建築学専攻の村上さんが 金武漢賞を受賞



建築学専攻修士 村上 晴香 さん  
【石原 沙織 研究室】

建築学専攻修士2年の村上晴香さんが、8月24日に室蘭工業大学で開催された第16回日本・韓国建築材料施工ジョイントシンポジウムにおいて、「金武漢賞(KIM Moohan)」を受賞しました。研究題目は「邦題：接着・密着工法の屋上防水層の耐風性評価のための接着力分布の把握」。屋上防水層の接着・密着工法の耐風性は、気象が激甚化する昨今において適切な評価試験方法の検討が急務となっています。本研究では新たな評価方法の提案として工法ごとの接着力を面的に明らかにしました。村上さんは「本研究は研究室の仲間や企業様のサポート、石原先生のご指導のおかげで実現できました。英語での口頭発表は不安でしたが、諦めずに挑戦し成長に繋がったと思います」と述べています。

## 村上和仁教授が千葉県 環境功労者知事感謝状を授与



生命科学科  
村上 和仁 教授

先進工学部生命科学科の村上和仁教授が、6月13日に千葉県庁で開催された表彰式にて、県環境功労者知事感謝状を授与されました。感謝状は6月の「県環境月間」に合わせ、環境美化や保全活動推進に貢献した9人1団体に贈ったもので、熊谷俊人知事は「県の豊かな自然は、皆さんの日々の積み重ねによる活動のおかげで維持されていると功績を讃えました。村上教授は千葉県環境影響評価委員会委員として各種案件の審議に携わり、環境行政の推進に貢献しました。村上教授は、「千葉県の環境行政に少しでも貢献できたことを大変光栄に思います。10年間の委員会活動は重責でしたが、非常に学びの多い経験でした。今後の研究や教育に活かして行きたい」と抱負を述べました。

## 学生寮が国際交流の場に 着付け体験を実施



色とりどりの着物を着用して記念撮影

7月16日(火)、寮会会執行役員会企画「学生寮着付け体験」が開催されました。日本の文化である着物を着る機会を設け、思い出作りと共に国際交流の場としてコミュニケーションが図れば…と、新たに企画されました。

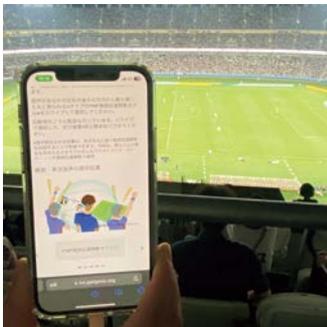
同イベントには、留学生を含む寮生と合わせて30名が参加。寮内でプロに着物を着付けしてもらったともに、学生それぞれの個性をもとにヘアメイクも施され、着物を着た後、新習志野キャンパス構内で写真撮影が行われました。

参加した留学生からは「着物を初めて着ました」「最初は窮屈に感じましたが、背筋が伸び気持ちよくなりました」「着物に合わせたヘアメイクや帯の結び方など、日本の文化の奥深さに感動しました」と話していました。今回のイベントを企画した責任者の梶田優さん(建築4年)と、平あかりさん(テザ2年)も、「貴重な国際交流の場となりました。参加者のみなさんが嬉しそう良かった」と感想を述べていました。

## 次世代エンターテインメント体験の実現を目指す



実証実験は国立競技場で行われた



音響XRの操作画面



飯田 一博 教授

先進工学部知能メディア工学科・飯田一博教授の研究室は7月、NTTと共同で音響XRを活用した新しいスポーツ観戦の実証実験を実施しました。3次元音響再生とオープンイヤー型イヤホンが実現するリアルとバーチャルが融合する音響XRを活用し、臨場感を感じながら従来にはなかったエンターテインメント体験の実現を目指します。

耳を塞がないオープンイヤー型イヤホンは、NTTグループが研究を進める周囲への音漏れを最小限に抑えるPSZ(パーソナライズドサウンドゾーン)技術を搭載。飯田教授の研究室が開発した音の方向を3次元的に制御する「パラメトリック・ノッチ・ピークHRTFモデル」を組み合わせ、体験者に合わせた最適な音響XR体験を提供します。

7月27日にJリーグのクラブとヨーロッパの強豪クラブが国立競技場で対戦した「明治安田Jリーグワールドチャレンジ2024」における実証では、オリジナル実況解説を観客に配信。体験者は試合をスタンドで実際に観戦しながら、バーチャル3次元音響再生により、あたかも専属の3人の解説者が左斜め後ろ、真後ろ、右斜め後ろの3席から実況・解説してくれるような空気感を再現しました。

飯田教授は「立体音響のポイントは前後左右上下の3次元的な音の方向感の再現。耳の特性の個人差が大きいため、これまでは実用化に至っていなかった。今回、聴取者一人ひとりにフィットする個別の頭部伝達関数の生成に成功し、NTTのPSZ技術とのコラボレーションで他に類を見ない画期的な音響XRを提供することができた」とコメントしました。

## 大学職業指導研究会 第四分科会 40周年記念式典 本学東京スカイツリータウンキャンパスで開催

本学東京スカイツリータウンキャンパスにて、大学職業指導研究会第四分科会の40周年記念式典が8月23日に開催されました。

大学職業指導研究会とは、首都圏を中心とする私立大学の就職支援業務に携わる担当者が、業務に関わる課題について協議、研究、情報交換することを目的に、1969年(昭和44年)に設立されました。この研究会は4つの分科会を中心に研究会、研修会、講演会、情報交換会などの開催、各種調査、および資料の編纂等の活動を行っており、現在114大学が加盟しています。

4つの分科会の中で、第四分科会は理工系学生を支援する立場から、理工系学生特有の諸事項を専門的に研究しており、現在28大学32キャンパスが会員となっており、今年設立40周年を迎えました。40周年記念式典は大学60名、企業120名の総勢180名参加し、第1部研究会、第2部記念式典と2部構成で行われました。第1部研究会では企業と大学がグループに分かれ、「採用手法の多様化に伴う外部採用支援サービス」、「企業の求める人物像と近年の学生の特徴について」などのテーマについてディスカッションして企業及び大学の課題について解決案を探りました。

続いて第2部記念式典では、第四分科会の運営委員長である本学就職・進路支援部須藤岳大グループ長補佐による過去10年間の活動内容を含めた挨拶から始まり、乾杯後に大学と企業で情報交換会(名刺交換会)が行われました。理系人材が売り市場の中、参加企業の80%が2025年3月卒業学生の採用を継続しているため、各大学で就職活動継続中の学生と企業がマッチングできるように、熱心な質疑応答が交わされました。また、1部と2部の合間に、各エリアの展示を見学及び体験していただきました。



## 「深層エコーステートネットワーク」性能向上の 仕組みの解明に一步近づく



研究成果を発表する井上秀一さん

本学、井上秀一氏（2023年度情報科学研究科修士課程修了）、信川創教授（情報工学科）や基礎生物学研究所、兵庫県立大学などの研究チームは、次世代型人工知能であるエコーステートネットワーク（Echo State Network: ESN）の性能を大幅に向上させる

アーキテクチャとして注目されている「深層エコーステートネットワーク（Deep Echo State Network: DeepESN）」の性能向上の鍵として、階層ごとの多様な時間スケールのダイナミクスの生成が重要な役割を担っていることを明らかにしました。

研究チームは、DeepESNの各層で生成される挙動の時間スケールについて、関連するパラメータ群を調整することにより、性能との関連を評価。その結果、時間履歴に関わるパラメータ群の中で、DeepESNの構成要素であるニューロンの時間履歴項がタスクに対応した最適値を持ち、その設定下において階層間で異なる時間スケールのダイナミクスが発生、その挙動が階層間で遅延伝搬することにより、長期間DeepESN内に保持されることを明らかにしました。この研究成果は、DeepESNのパラメータ調整に一定の指針を提供し、学習に大きなリソースを割くことのできないエッジAIのような環境下での学習に大きく貢献すると期待されます。

同研究成果は2024年7月16日に、スイスに本部を置く科学・工学・医学についての出版社であるFrontiers Media SAの査読付き学術雑誌であるFrontiers in Artificial Intelligenceにて発表されました。

## fuRoのロボットに興味津々！ ロボットの魅力を伝えるワークショップを開催

未来ロボット技術研究センター（fuRo）の古田貴之所長が最先端ロボットの実演を交えて、分かりやすく面白く、ロボットの魅力を子どもたちに語りかけるワークショップ「最先端ロボットと触れ合う！」が、8月9日（金）に東京ミッドタウン アトリウムで開催されました。

タイヤで走るだけでなく車軸での歩行もできるロボットビークル「Halluc II $\chi$ 」や、用途によってトランスフォームする搭乗型変形ロボット「CanguRo」、1人乗りの電動小型モビリティ「ILY-A」や探査活動が困難とされる現場で情報収集する災害対応ロボット等と触れ合い、実際にロボットにさわって、知って、一緒に学ぼう！と、古田所長はこれら自慢のロボットを、ユーモアたっぷりに紹介。

次々に現れるロボットの動きに、参加した子供たちはもちろん、保護者の方々も声を上げて大喜び。実際にロボットの中身を見学する時間になると、研究員らの説明に目を輝かせて聞き入っていました。古田所長は「夢を持って一生懸命に頑張れば、だれでも将来、こんなすごいロボットを作れるんだよ」とワークショップを締めくくり、イベント終了後はそれぞれのロボットや古田所長との記念撮影が繰り広げられ、会場は終始賑やかな空間となりました。



覗き込んでロボットの中身を見る子供たち



イベントには多くの家族連れが参加した



ロボットの面白さを語る古田所長

### 訃報

総務部 津田沼警備室 警備員の仁井元修（にいもと おさむ）さん（64歳）が、8月9日（金）急性心筋梗塞のため死去しました。謹んでお悔やみ申し上げます。



## 今年も大盛況！ 6月・8月のオープンキャンパス



音環境実験スタジオで不思議体験



満席で立ち見も出た入試ガイダンス



女子学生によるチバテクコの部屋



各学科が工夫をこらして行った体験授業



認知情報科学科ではVRを体験



新習志野キャンパスツアーで図書館をめぐる

### 6月オープンキャンパス

6月23日(日)に津田沼キャンパスで行われたオープンキャンパスは、天候に恵まれず大雨のなか開催となりましたが、2484人の受験生、保護者らが来場しました。

メインとなる入試ガイダンスや学部学科全体説明会は続々と満席となりました。

高度技術者育成プログラムによる「超小型衛星・KASHIWA」の打ち上げや、ISSからの放出成功のニュースで、同ラボにも見学者が多く訪れました。また、工作センターや材料解析室、音環境実験スタジオなど特徴のある施設も公開し、参加者から好評を得ていました。

### 8月オープンキャンパス

8月3日(土)、新習志野キャンパスで開催されたオープンキャンパスは、夏休みということもあり、全国各地から多くの受験生や保護者らが訪れ、来場者は5508人となりました。

メインイベントは6月同様で、千葉工大の特色や入試方法を詳しく知ると、会場に立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。

体育館では全学科が「学び体験」を展開。研究内容を分かりやすく紹介しようと展示物や体験授業に工夫をこらし、魅力をアピールしました。また、大学1、2年生の学びを知ってもらう「新習志野からはじめよう!」では、教育センターの教員らが、入学後に必要な基礎科目や学びについて説明し、大学生活のイメージが湧いたという声が聞かれました。

人気のキャンパスツアーは、在学生が中心となって構内を回り、熱中症対策への配慮も含め、丁寧に対応しました。また、学生寮では、寮生の部屋を一部公開するなどして入学後の生活の様子などに安心した様子が伺えました。

「在学生にきいてみよう」や、女子学生による「チバテクコの部屋」も人気で、保護者からは「学生さんが生き生きと楽しそうに説明している姿が印象的。入学後、先輩方のようになれるかしら?」との声も。アンケートでは、「暑い中冷たい水の配布がよかった」「校舎が広々としてきれい。充実したキャンパスライフが期待できそう」「先生方や先輩方の説明で学科の特徴がわかった」と意見が寄せられました。

就職・進路に役立つ情報をお届けします

## 就職・進路支援だより



## 貴重なイベントが続々開催予定

## 学部4年生・修士2年生向け支援

10月28日(月)午後、千葉工大生を積極採用する企業が集まる「合同企業説明会」を実施します。効率よく、多くの企業のお話を聞くことが出来るチャンスです。会場には就職・進路支援部スタッフも待機していますので、当日不安なことは遠慮なくご相談ください。活動中の方、これから活動を始める方も、安心して参加することが出来る学内の機会を活用してください。参加企業、実施場所等の詳細は、決定次第就職システムやメール配信にてお知らせします。

引き続き、個人面談も実施しております。何をしたら良いかわからない、不安でなかなか進めないといった悩みがあれば、迷わず就職・進路支援部にご相談ください。就職システムからの個人面談予約も可能です。

## 全学年向け支援

10月3日(木)津田沼キャンパスにて、本田技研研究所による「R&Dセミナー」を実施します。本田技研研究所は、人と分かり合い協調・共存する協調人工知能の研究等を行っています。セミナーでは、ホンダの2030年以降の未来に向けた取り組みなど、技術実証実験について紹介すると共に、自動運転体験試乗、車両展示も行います。16時からは本田技研研究所のチーフエンジニア講演会も実施します。詳細は、メール配信等でお知らせいたします。貴重な機会ですので、多くの学生の皆さんの参加をお待ちしています。

## 学部3年生・修士1年生向け支援

後期以降、就職支援のための各種講座およびイベントが予定されています。詳細は、後期ガイダンスで配布の資料および就職システムにて確認してください。

「国内インターン」単位認定希望者は、9月および10月に実施する「インターンシップ報告会」に必ず出席のうえ、就職システムに報告入力をしてください。その他の認定要件も全て満たしているか、各自で再度確認してください。

## 全学年対象 業界・職種・企業理解セミナー(9・10月開催分)

| 日程                 | 内容等   |
|--------------------|---|
| 9月26日(木)           | 本田技研工業、大王製紙、日本コムシス  |
| 10月10日(木)          | 日産自動車、日本ハム食品、総合警備保障   |
| 10月12日(土)<br>※合同開催 | 全日本空輸、山崎製パン、楽天グループ、三菱ケミカル、三菱自動車工業、日野自動車、クボタ、沖電気工業、アルファシステムズ、東武鉄道グループ、レンゴー 他 |
| 10月17日(木)          | TOPPAN、千葉銀行、キャノンシステムアンドサポート   |
| 10月24日(木)          | アルプスアルパイン、デンソー、京成電鉄   |
| 10月31日(木)          | キャノン、資生堂、東海旅客鉄道   |

対象:全学部全学年

予約:就職システムの支援行事予約

★各企業詳細や実施場所・時間等は、就職システム及びメール配信をご確認ください。

★全て津田沼キャンパスでの対面実施。私服でご参加ください。

## 同窓会



今年の夏も暑く、ついクーラーのある部屋でのんびりしたくなりますよね。

でも、そんな暑さにも負けず、久しぶりに岩手県平泉町へ調査に行ってきました。調査の傍ら、平安末期の奥州藤原氏統治時代を想像しながらまち歩きを……と思いきや、今はVRゴーグルとイヤホンを使って、360°フルCGで再現された当時の映像を遺跡の上で楽しめるようになっていました。周りから見ると、ゴーグルを装着してキョロキョロする謎の人に見えたかもしれませんが、実際の遺跡で使用したVRゴーグルは、没入感が高く、楽しさ倍増でした。歴史を詳しく知らない人でも、その時代の景色を簡単に想像することができそう。新たな平泉の楽しみ方を私も満喫してきました。

奇しくも今年は世界遺産の構成資産にもなっている中尊寺金色堂の建立900年の年。平泉の歴史の深さを改めて感じるとともに、節目の年に思い出に残った調査になりました。

都市環境工学科 磯野 綾

## 四季雑感



この原稿を書いているのが9月上旬。あと1週間ほどで始まる後期の授業準備に追われています。今年は新学科で新たに担当する演習と、今年度からフルオンライン化する授業があるため、これまでコツコツと授業の内容・資料を改善してきた貯金があり通用せず、たくさん資料や動画を作成することになります。本学に着任した7年前、新たに担当する授業のために「自転車操業」で授業の準備をし、その3年後には120分授業化とコロナ禍による授業のオンライン化によって、再び授業の内容や構成を大幅に見直すことになりました。

あれから4年経って、これからしばらく学年進行に伴う新授業の立ち上げが続きます。学生にはいつも、learning by teaching(教えることによる学び)が重要と説明していますが、今まさに私自身が授業の準備をしながら学びを得ているところです。この準備が報われるかは、学期末に学生達が成長したと感じてくれるか次第ですが、きっと報われると信じて今日も授業の準備に動きます。

認知情報科学科 國宗 永佳

## 編集だより



日に日に空気が秋めいて、空が澄んでくる9月。9月といえば「十五夜」や「お月見」が真っ先に思い浮かぶのだが、これは、食いしん坊な私ならではののあるある?まん丸お月様が、あたかもお団子に見えるからという訳ではない(笑)。

そもそも、月は季節にかかわらずいつも見られるのに、なぜ昔から秋の月は美しいといわれるのか?ググってみたところ、この時期の空気の水分量や大気の状態、月の高さなど、月が最も美しく見える条件が揃っているからだそう。2024年の「中秋の名月」は9月17日(火曜日)。日々忙しく過ごす現代人にとっては、中秋の名月の日とはいえ、祝日でもないかぎり月を見上げる余裕はなく、普段と変わらない1日を過ごしてしまうのだろうか?いやいや、風が心地よく虫の音が聞こえはじめる頃、ゆっくりとお月見の準備をして、季節の移ろいを感じてみてはいかがでしょう?もちろん、お月見団子は餡子にするのか、みたらしにするのかなどで揉めたりすると、なお、素敵な時間になると思う。

入試広報部 大橋 慶子